

平成 27 年度 (2015 年度)

佼成学園中学校入学試験問題

国 語

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いたり裏返したりしてはいけません。
2. 解答用紙は 1 枚です。
試験が始まったらすぐに解答用紙に受験番号を記入してください。
氏名は記入してはいけません。
3. 問題は 14 ページまであります。
試験開始後、ページ数がそろっていることを確認してください。
4. ページがぬけていたり印刷が見にくい場合には、手をあげて担当者に知らせてください。
5. 解答はすべて解答用紙の所定の場所に記入してください。

[一] 次の——線部について、漢字をひらがなに、カタカナを漢字に直しなさい。

- ① 桜を植樹する。
- ② 親孝行をする。
- ③ 冬至が過ぎて寒さが増す。
- ④ 異なる考え方を受け入れる。
- ⑤ 委員会を設ける。
- ⑥ タイシユウ的なスポーツ。
- ⑦ プンタンして仕事をする。
- ⑧ 歴史をタイケイ的に学ぶ。
- ⑨ 絵の具をマゼる。
- ⑩ マフラーをアむ。

[二] 次の問いに答えなさい。

問一 次の1～3の——線部はどこにかかりますか。——線部ア
くオの中から最も適当なものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- 1 ピカソは、現代の代表的な画家の一人に挙げられる。
- 2 川岸に桜の花がさくころになった。
- 3 たとえ雨が降っても明日の試合は行う。

問三 次の1～3の中のそれぞれの言葉を五十音順の国語辞典で引くと
きに、出ている順にア～エの記号を並べなさい。

- 1 ア投資 イ通す ウ読点 エ投手
- 2 ア続く イ包む ウ伝言 エ立場
- 3 ア雨天 イ雨宿り ウ雨戸 エ雨降り

問二 次の1～4の□に対照的な意味をもつ二つの漢字を入れて
四字熟語を完成させるとき、その組み合わせとして適当なものを
後のア～オの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- 1 □往 □往
- 2 □肉 □食
- 3 □起 □回
- 4 □針 □棒

- | | | |
|-------|-------|-------|
| ア 弱・強 | イ 前・後 | ウ 小・大 |
| エ 死・生 | オ 右・左 | |

〔三〕 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

（句読点や記号も一字にかぞえること。本文の行末にある数字は行数です。また、文中の会話には、関西地方の方言がふくまれています。）

小学校一年生の博士はこの町に引越してきたばかりで、まだ同い年の友達がなく、ふだんは自宅前の川で一人遊びをすることが多かった。
夏休みのある日、博士は五年生のガキ大将「ムルチ」とその子分である「サル」と「ブンちゃん」が川の始まりを見つめる探検をすることを聞き、自分も連れて行ってほしいと頼みこんだ。以下の文章は四人が探検に出かけた場面である。

博士は菌を食いしばって三人を追い続けた。気を抜いたら置いていかれてしまう。ムルチは待つてくれないに違いない。こんなところではつたらかしにされたら大変だ。

虫籠が上下左右に揺れるものだから、トノサマバッタは中で激しく跳びまわっていた。虫取り網は木の枝にしょっちゅう引っかかつては騒々しい音を立てた。

サルもブンちゃんも無口だった。きつと話をしる余裕なんてなかったのだ。博士なんて話すどころか、考える余裕さえなかった。ただ目の前には足下の悪い上り坂があつて、それをずっと走り続けるだけで目一杯だった。自然と泣きそうになって、それでも泣かないと約束した。ことだけは心の底に根を張っていて、

I

涙を押し殺した。

斜面はどどんきつくなり、流れも速くなつていった。川が小さな谷を刻んでいるために、迂回してほとんど垂直の崖を一メートルばかりよじのぼらなければならないところもあった。五年生たちはこともなげに出来たけど、博士ではそうもいかない。崖の断面から突き出し

ている太い木の根に手と足をかけて、やつとの思いで体を持ち上げた。足には擦り傷ができ、服は全部泥だらけになり、顔には蜘蛛の巣がまわりついた。博士は悲鳴をあげそうになった。でも、そうすると泣いてしまいそうだと気づいて、やはり噛み殺した。

博士がへとへとなつてもうダメだと思つた頃、ムルチがやつと立ち止まった。川沿いにはササがびっしりはえていて、それ以上は進めなくなつていた。

「また難所や。しゃあない、いくで」と言つて、迷いもなく川の中に足をつつこんだ。そのまま脛までの水を蹴りながら上つていく。サルがそれに続いた。でも、ブンちゃんが動かない。

「なあ、そろそろ帰らんか。ちよつと暗うなつてきたで」
ブンちゃんは、蚊に刺されて掻きむしつた跡のある肩に両手を回して震えていた。博士はそれで逆にほつとしてムルチを見た。

「何をゆうとんじや。一年生のハカセかて泣きもせんと来とう。な、ハカセ、おまええらいわ。ほめたる。それに比べてブンはどうじや。キンタマが縮みあがつとるんじやろ」

ブンちゃんが鼻水をすすり上げ、「ちがうわい」といきり立つた。博士はムルチに誉められたことが嬉しくないわけではなかった。でも、もつと複雑な気持ちだった。

沢登りが始まつた。滑りやすい苔のついた石の上を一つ一つ跳び、

③ムルチがぎろりとサルを見た。サルは言葉を呑み込んだ。
難所は終わり、足下のしっかりと山道が続く。また川が谷を刻んだけれど、道は数メートル上にずっと続いていて、わざわざ川に下りることもなく歩き続けた。

赤い光が目の中に飛び込んできた。
それは、もうすぐ沈む太陽なのだった。
毒々しいまでに赤く染まつた空の下、小さな箱庭みたいに世界が広がっていた。

風に揺れる水田と、小さな屋根の群れ。赤黒い血流のような川と、さらに深く沈んだため池。大きなパン工場の少し先に、屋根瓦が密集した新興住宅街があつて、それは稲の海に浮かぶ島のようなだった。博士の家は川沿いだけど、どれなのかは分からなかった。そんなことより、なんて小さなところにぼくは住んでいるんやろかと博士は思い、
④自分が大きくなつたようにも、淋しいようにも感じた。

みんながしばらく放心したようにその光景を見つめていた。頑なに先を急いでいたムルチさえ、食い入るようなギョロ目で見つめていた。やがてムルチは眉間に皺をよせ、本当に怪獣使いの老人みたいな顔つきになった。またかすかに唇が動いて、声にならない言葉を吐き出した。

ナカヘンデ。ナイタラアカン。
気のせいかもしれない。ムルチの唇がそんなふうに動いたように思えた。

⑤見てはいけけないものを見てしまった気がして、博士はまた視線を風景に戻した。
風がひととき強く吹いた。すると稔り始めている稲穂の先端が赤い

踏み固められて歩きやすそうな山道が、川に寄り添っていた。
「なんや、ずっと道を通ってきたら、結局、ここに出たわけじゃん」

光を宿して、風にあわせて水田の中を行ったり来たりした。さわさわという音が聞こえてきそうだった。

そして、それは突然やつてきた。

ほんの一瞬のことだ。住宅街の建物はみんな Ⅱ した区画で同じ方向に建てられている。その屋根瓦がいつせいに夕陽を反射して、鈍い輝きを放ったのだ。

あ、とか、うわあ、とか誰からともなくうめき声のようなものが漏れた。

それに続いて、博士には聞こえたのだ。聞こえるはずもないのに、本当に聞こえたのだ。

笑い声だった。一人ではなくて、沢山の人の笑い声だった。今、あの家々の中で、タンタンタンと長ネギが刻まれ、味噌汁のふんわりした湯気が漂い、お腹を空かせた子供たちが食卓に集まり、早く帰ってきた父さんと母さんが、きょうの出来事を楽しげに話している時のような、さりげないけれど満ち足りた笑い声だった。それがいくつもの家の中からあの屋根をアンテナにして、一気にここまで送り届けられたような、そんな感覚だった。

それが続いたのはほんの少しの間だった。博士は息を殺して耳を澄ましたし、それでも呼吸が苦しくなることもなかったから、ほんの十秒か二十秒だったにちがいない。

やがて、笑い声は遠くなって、自分の心臓の音がかわりに聞こえてきた。

力強く脈動し、体の中を駆けめぐるものを強く感じた。

目眩がした。

眼下を流れる赤黒い川も一緒に脈打っていた。

やがて風の音が戻ってきて、ふいにお腹がぐうと鳴った。太陽はもう地平線にかかっており、空はもう夜の色になりかけていた。

ナカヘンデ。ナイタラアカン。

さつき目に焼き付いたムルチの唇の動きを思い出した。不思議だし、それ以上に身につまされた。泣いたらあかんののは、ぼくや。ムルチがなんでそんなこと言うんや。泣いたらあかんののは、ぼくや。

博士の中の深いところで、もやもやとした感覚が急に大きくなって喉を突き上げた。

考える間もなく、目頭が熱くなった。

^⑥ 泣かへんもん、と思った時にはもう涙がこぼれていた。手で押さえようとして、そんなことしても無駄だと分かり、すると、後から後から溢れ出した。

(川端裕人『今ここにいるぼくらは』集英社より)

※1 泣かないと約束したこと……これより前の場面で博士はムルチたちに対し、探検の途中で絶対に泣かないと約束していた。

※2 ハカセ……博士のこと。博士は虫や動物に詳しいことから「ハカセ」と呼ばれていた。

※3 怪獣使いの老人……ムルチというあだ名の由来となった、『ウルトラマン』シリーズに登場する老人のこと。

問一

I

II

に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

I

- ア ふっと
- イ じっと
- ウ はっと
- エ ぐっと

II

- ア きつちり
- イ がっしり
- ウ どっしり
- エ ひっそり

問二

線部A・Bの意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

A 「いきり立つ」

- ア 見栄をはって嘘をつく
- イ 怒って興奮する
- ウ たじろいで動揺する
- エ 意地をはって反発する

B 「身につまされる」

- ア 人ごとでなく思われる
- イ 身ぶるいするほど緊張する
- ウ 納得がいかに困惑する
- エ かわいそうに思って同情する

問三

——線部①「博士はそれで逆にほっとしてムルチを見た」とありますが、このときの博士の心情の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 探検を中断しようというブンちゃんの提案を最初は残念に思ったが、無理もない決断だと考え直し、ムルチの反応をうかがっている。
- イ 恐怖を覚えていたのは自分だけだと思ったが、上級生のブンちゃんも同じ気持ちであることに勇気づけられ、ムルチも本当は怖いのではないかと疑っている。
- ウ 自分が望んで探検についてきたものの、内心は帰りたいと思い始めていたので、ブンちゃんの提案に胸をなでおろし、ムルチが思い直してくれることに期待している。
- エ 上級生であるブンちゃんが自分より先に弱音を吐いたことに驚いたが、このことでムルチの自分に対する評価がかえって上がるのではないかと考えている。

問四

——線部②「もつと複雑な気持ちだった」とありますが、この「複雑な気持ち」にふくまれないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ムルチに誉められて嬉しく思う気持ち。
- イ 家に帰れなくて残念に思う気持ち。
- ウ もう山道を歩かずにすむことに安心する気持ち。
- エ 自分も本当は弱気になっていたことを恥じる気持ち。

問五

——線部③「ムルチがぎろりとサルを見た」とありますが、ムルチがこのようにサルを見たのはなぜですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分が言おうとしていたことをサルに先に言われたから。
- イ 自分に対する批判めいたものをサルの発言に感じ取ったから。
- ウ 人のやる気をそぐようなサルの発言をたしなめたかったから。
- エ 自分が気づきもしなかったことをサルに言われて驚いたから。

問六

——線部④「自分が大きくなったようにも、淋しいようにも感じた」とありますが、このときの博士の心情の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア いつもは気にもとめなかった町並みが実は美しさにあふれていることに気づき、心を奪われている。
- イ 自分が生活してきた世界が想像以上にさびれている現実を目の当たりにし、心を痛めている。
- ウ 自分の生きている世界がとても小さなものであるように感じられ、もの悲しい気持ちになっている。
- エ 自分の住んでいる町が遠くに見えることで、この探検が終わりに近づいているような気がして動揺している。

問七

——線部⑤「見てはいけないものを見てしまった気がして、博士はまた視線を風景に戻した」とありますが、このときの博士の心情の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア ムルチが不安を必死に隠そうとしていることに気づき、自分も不安な気持ちになっている。
- イ いつもは威張っているムルチが取り乱している姿にがっかりし、期待を裏切られたような気持ちになっている。
- ウ ぼうぜんとしているムルチにかけるべき言葉が見つからず、どうしたらいいのか分からずに困惑している。
- エ ふだんとは違うムルチの一面にふれたことで気まずさを感じ、目をそらさずにはいられなくなっている。

問八

——線部⑥「泣かへんもん、と思った時にはもう涙がこぼれていた」とありますが、このとき博士が泣いてしまったのはなぜですか。その理由の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分たちが住んでいる町の、ささやかではあるが美しい風景を見たことで、改めて故郷のすばらしさを発見して感動したから。
- イ 笑顔に満ちた温かな家庭の姿が見えたことで、家族が自分を心配しているのではないかと思い、ムルチたちと探検に出たことを後悔したから。
- ウ 町の人々の幸せそうな笑い声が聞こえたことで、自分の家族のことを思い起こし、家に帰りたい気持ちをおさえきれなくなつたから。
- エ 不思議な幻覚を見たことで、自分の家族の日常を思い出し、今の自分の非日常的な状況に対する恐怖心がわき起こつてきたから。

大阪大学が世界に誇る天才ロボット博士石黒浩先生と、ロボットで演劇を創るプロジェクトを始めたのは二〇〇八年。二〇一〇年からは、より人間に近いアンドロイド型ロボットを使って作品を創り、すぐに世界各国を回る状態になった。

ロボット、あるいはアンドロイドと演劇を創っていて、よく聞かれる質問の一つに、「ロボットは人間を超えますか?」という類のものがある。あるいは、演劇関係者からの質問で「人間のような即興はできないでしょうか?」という類のもの。

※1 そつぎょう

さて、この問いかけの意味は何だろう。私たちは、ロボット演劇の研究を通じて、人間を人間たらしめているものは何かを追求してきた。もう少し突き詰めて言えば、「人間が人間らしく見えるのは、どういった要素によるのか」を、工学と芸術の両方の側面から考えてきた。

そこでわかってきたことは、どうも私たちがロボットなりアンドロイドなりを「人間らしい」と感じるのは、その動きの中に無駄な要素、工学者がよく言うところの「ノイズ」が、的確に入っているときだという点だ。

私は、ここ一五年ほど、認知心理学の研究者と共同研究を行ってきた。そこで彼らから学んだことは、だいたい以下のような事柄だ。

人間は何かの行為をするときに、必ず無駄な動きが入る。(1)

ろん、こういった演技の摩耗から逃れられる人もいる。世間は、それを「天才」と呼ぶ。

二〇世紀に開発された様々な演劇教育の技法の中には、「即興」が取り入れられているものが多い。これは要するに、繰り返し稽古をしても常に新鮮さを保ち続けるような「精神性」を養う訓練ではなかったかと私は考えている。それはそれで、一つの教育法として間違いない。

一方、これまで私が採ってきた方法は、まったく別の方向からのアプローチだった。私は、俳優に様々な負荷をかけることによって、新鮮さが保てないかと考えた。この方法論を簡単に説明すると、ある台詞を言うのと同時に、右手ではコップをつかみ、左足では近くの新聞紙を引き寄せるといった形で、俳優に複雑な動作を要求していく。また同時に、その台詞を言っている瞬間に、何が視界に入っているか、どんな音が聞こえているかを強く意識させる。それを総称して、「俳優に負荷をかける」と呼んできた。

一つには、こうすることによって意識が分散され、台詞に余計な力が入らなくなることが、私のそもそもの発見だったのだが、もう一点、この方法を探ると、俳優の新鮮さ、あるいは新鮮に見える要因となっている「無駄な動き」が、普通の場合より長く持続することがわかってきた。稽古を続けても、何度なマイクロスリップが消えていかな

いのだ。これも認知心理学の方々から教えていただいた知見なのだが、どうも人間というのは、複雑な動きをきちんと記憶するときには、インプットとアウトプットを、同時に記憶しているらしい。とこれだけでは、

コップをつかもうとするときに、最初からきちんとコップをつかむのではなく、手前で躊躇したり、一呼吸置いたりといった行為が挿入される。こういった無駄な動きを、認知心理学の世界ではマイクロスリップと呼ぶそうだ。

すぐれた俳優もまた、この無駄な動き、マイクロスリップを、演技の中に適切に入れていく。要するに私たちが、「あの俳優はうまい、あの俳優はへただ」と感じる要素の一つに、この無駄な動きの挿入の度合い(量とタイミング)があるということがわかってきた。この無駄な動きは、多すぎても少なすぎてもいけない。うまい(と言われる)俳優は、これを無意識にコントロールしているのだろう。

人間は誰しも、演技をしようとするれば緊張する。この緊張が、マイクロスリップを、何度にしたり、あるいはマイクロスリップを消してしまうことになる。

もう一点、研究の過程でわかってきたことは、この無駄な動きは、練習を繰り返すうちに少なくなっていく(埋没していく)という点だ。だから演劇の場合、稽古を続けていると演出家から、「なんだか最初の頃の方がよかったなあ」と言われることがままある。

プロの俳優は、同じ舞台を五〇回、一〇〇回とこなさなければならぬ。しかし演技を続けられ続けるほど、動作は安定するが、そこから無駄な動きがそぎ落とされ、結果として新鮮味が薄れていく。もち

何を言っているのかわからないかもしれないので、実例を挙げてみる。

オリンピッククラスの体操選手が、いわゆるウルトラCといった新技を習得するときには、(2)繰り返し、自分の筋肉や関節の動きを記憶し何度もシミュレーションをする。しかし同時に、天井や壁が、どの順番で、どのような角度で見えてくるかを記憶していくそうだ。要するに、人間は、主体的な筋肉や関節の動き(アウトプット)と、視覚というインプットを同時に、しかも脳内で何らかの形で関連づけて記憶しているのだ。

※7

舞台の俳優にも似たようなことが起こる。舞台上、机の上に、新聞、ビール瓶、グラス、花瓶と様々な小道具が並んでいる。そのどれか一つ、たとえばグラス一つを演出助手が置き忘れただけで、ある特定の台詞が出てこないということが往々にして起こる。意識はしていないが「ある台詞を言うときには、グラスを見る」というように、その俳優の脳細胞が記憶しているらしいのだ。私たちの脳は、このようにインプットとアウトプットを関連づけて記憶している。

長期的で安定した記憶は、複雑な印象の絡みあいから起こる。たぶん、そうらしい。

「たぶん、そうらしい」と書いたのは、まだこれは脳科学の世界でも、はっきりと確認されたわけではない事柄だからだ。いまだこの分野では、認知心理学のような現象の解析からのアプローチの方が、少しだけ先を行っている。

脳科学の世界でも、短期的な記憶の分野は随分と分析が進んでいる。脳のここの血流が盛んだとどうも記憶が活発になる、脳のここの辺が萎縮すると物忘れが激しくなるといった類である。皆さんが日頃

※9 やっている「脳トレ」等も、こういった研究を根拠にしている。これは短期的な記憶を扱う分野だから、ボケ防止などには確かに効果があるだろう。しかし、これから数十年を生きなければならない子どもたちに脳トレをやらせて、さほどの効果があるとも思えない。

いま、日本の教育界のもっとも大きな課題の一つは、子どもたちの長期的な記憶に関する部分だろうと私は考えている。

かつて「分数のできない大学生」という言葉が話題となった。

(3)、これは言葉として正確を期すなら、少し間違っている。「分数のできない大学生」ではなく、「分数を忘れてしまった大学生」と言わなければならない。本当に分数ができなかったら、その学生は進級、進学ができなかったはずだから。

問題は、これまでの日本の学校教育のシステムは、この「短期的な記憶」しか問うてこなかったという点だ。分数は期末試験までできればいい。英単語は大学入試まで覚えていればいい。学校での学びと、社会で有用な知恵が、ほとんど連結をしていなかった。

もちろん、そのような試験にも意味はあったのだと思う。そこで問われていたのは、おそらく「学力」ではなかった。そこで問われていたのは、「従順さ」と「根性」だった。

教師から、「期末試験に出すから、教科書のここからここまでを覚えてこい」と言われて、それを素直に履行する従順さと、それを時間内に覚えきる根性が問われていた。そして、それは、たしかに無意味なこともなかった。高度経済成長期には、そのような従順で根性のある産業戦士こそが、国家から求められる人材だったのだから。

工業立国においては、「ネジを90度曲げなさい」と言われたら、90

95

度曲げる正確性とその能力が求められてきた。しかし、付加価値(人との違い)が利潤を生むサービス業中心の社会においては、90度曲げる能力、いわゆる従来の基礎学力に加えて、60度曲げてみようという発想や勇氣、あるいは「120度曲げてみました、なぜなら……」と説明できる表現力やコミュニケーション能力がより重要視される。

④ ここでは、短期的な記憶を問うだけの従来型の学力試験をくぐり抜けてきた人材が有用とは限らない。現在、学力や学歴と、企業で個々が発揮する能力にずれが出てきているのも、この点に由来している。

125

では、一体、これからはどのような授業が求められるのだろうか。長期的な記憶のメカニズムは、あまりよくわかってはいないが、どの脳科学者、あるいは認知心理学の専門家に聞いても、ある程度明らかなのは、先ほども触れた通り、「どうも長期的な記憶は、様々な新鮮な体験の組みあわせによつて起こるらしい」という点だ。

130

ぶつちやけて言えば、「メチャクチャに、子どもの興味の赴くままに、いろいろと教えた方がいい」という話になる。

とこれでは乱暴な議論なので、現場の先生方には、私は以下のように説明している。

135

「教室で習う星座の名前より、キャンプ場でお父さんから習った星座の名前を、子どもたちはよく覚えていくでしょう」

「教室で習う花の名前よりも、散歩の帰りにお母さんから習った花の名前を、子どもたちはよく覚えているでしょう」

⑤ いま大事なことは、この「よく覚える」という点だ。「たくさん覚える」「早く覚える」という教育から、「よく覚える」という教育へ、

140

教育の質を転換していかなければならない。

(平田オリザ『わかりあえないことから』講談社より)

* 本文は設問の都合上、一部表記を改めてあります。

※1 即興……台本などによらず、その場の思いつきで演技すること。

※2 躊躇……ためらうこと。

※3 摩耗……すりへること。ここでは新鮮味がなくなること。

※4 アプローチ……方法や手段のこと。

※5 インプット……入力。ここでは周囲の状況を知覚すること。

※6 アウトプット……出力。ここでは主体的に体を動かすこと。

※7 シミュレーション……本番を想定して練習すること。

※8 萎縮……しぼんで小さくなること。

※9 「脳トレ」……脳の働きを活性化させることを目的としたゲームソフトなどのこと。

度曲げる正確性とその能力が求められてきた。

しかし、付加価値(人との違い)が利潤を生むサービス業中心の社会においては、90度曲げる能力、いわゆる従来の基礎学力に加えて、60度曲げてみようという発想や勇氣、あるいは「120度曲げてみました、なぜなら……」と説明できる表現力やコミュニケーション能力がより重要視される。

120

④ ここでは、短期的な記憶を問うだけの従来型の学力試験をくぐり抜けてきた人材が有用とは限らない。現在、学力や学歴と、企業で個々が発揮する能力にずれが出てきているのも、この点に由来している。

125

では、一体、これからはどのような授業が求められるのだろうか。長期的な記憶のメカニズムは、あまりよくわかってはいないが、どの脳科学者、あるいは認知心理学の専門家に聞いても、ある程度明らかなのは、先ほども触れた通り、「どうも長期的な記憶は、様々な新鮮な体験の組みあわせによつて起こるらしい」という点だ。

130

ぶつちやけて言えば、「メチャクチャに、子どもの興味の赴くままに、いろいろと教えた方がいい」という話になる。

とこれでは乱暴な議論なので、現場の先生方には、私は以下のように説明している。

135

「教室で習う星座の名前より、キャンプ場でお父さんから習った星座の名前を、子どもたちはよく覚えていくでしょう」

「教室で習う花の名前よりも、散歩の帰りにお母さんから習った花の名前を、子どもたちはよく覚えているでしょう」

⑤ いま大事なことは、この「よく覚える」という点だ。「たくさん覚える」「早く覚える」という教育から、「よく覚える」という教育へ、

140

問一 (1) (3) に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア しかし イ もちろん
ウ しかも エ たとえば

問二 線部Ⅰ「□度」・Ⅱ「□度」の□に当てはまる漢字を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号は一度しか使えないものとします。

ア 適 イ 再 ウ 丁
エ 数 オ 過

問三 線部①「世間は、それを『天才』と呼ぶ」とありますが、ここで言う「天才」とはどのような俳優のことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 「無駄な動き」のない、常に安定感のある演技を続けることができる俳優。
イ 演技の中に「無駄な動き」をほどよく保ち続けることができる俳優。
ウ 演技をするうえで、大胆に「無駄な動き」を表現することができる俳優。
エ 演技を続けるうちに、「無駄な動き」をそぎ落とすことができる俳優。

問四

——線部②「私が採ってきた方法」とありますが、この方法とはどのようなものでしたか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 演技から余計な力を抜き、すらすらとよどみなく台詞を言うことができるように、俳優にさまざまな作業を同時に課していくという方法。
- イ 俳優に演技への新鮮な思いを忘れさせず、常に緊張感を維持させるために、演出上の細かい点にまで注意を促していくという方法。
- ウ 台詞を言うときに余計な力が入るのを防ぎ、演技にいつまでも新鮮さを保ち続けさせるため、俳優にさまざまなことを同時に要求していくという方法。
- エ 俳優が極限まで演技への集中力を高められるように、背景や小道具、音など、さまざまな周辺情報にまで意識を向けさせるという方法。

問五

——線部③「グラス一つを演出助手が置き忘れただけで、ある特定の台詞が出てこないということが往々にして起こる」とありますが、その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 台詞を発する行動とグラスが見えるという状況が、脳の中で関係性をもって記憶されているから。
- イ グラスなどの舞台上のさまざまな小道具と台詞を意識的に関連づけて記憶しているから。
- ウ 台詞をともしなう複雑な動きを、その前後の一連の動作との関わり合いの中で記憶しているから。
- エ 常に一定の条件で行われる稽古の中で、複雑な台詞は正確に記憶されているから。

問六

——線部④「短期的な記憶を問うだけの従来型の学力試験をくぐり抜けてきた人材」とありますが、これはどのような人材ですか。その内容が具体的に述べられている一文を文中からぬき出し、初めの五字を答えなさい。

問七

——線部⑤「いま大事なことは、この『よく覚える』という点だ」とありますが、「よく覚える」とはどういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 実体験を通して一つひとつの知識を獲得し、物事を深く理解すること。
- イ 興味の赴くままに学習することで、物事への強い関心が育つということ。
- ウ いろいろな経験と関連づけて、より多くの知識を取得すること。
- エ さまざまな体験が組み合わせられることで、記憶がより深く定着すること。

問八

本文の内容として適当でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ロボットの動きを「人間らしい」ものと感じるためには、その動きの中に「ノイズ」と呼ばれる無駄な要素が含まなければならない。
- イ 「即興」という演劇教育の技法は、一つの教育法として間違いない。
- ウ 短期的な記憶の仕組みについては、脳科学の分野における分析が進んでいるが、長期的な記憶の仕組みについてはまだ確認できない部分が多い。
- エ これからの社会に求められている能力は、変化を恐れず新しい発想を生み出す思考力や、自分の意見を適切に表現して他者に伝える能力だと言える。

(問題は以上です。)

国語 解答用紙

[一]

①	植樹
---	----

②	孝行
---	----

③	冬至
---	----

④	異なる
---	-----

⑤	設ける
---	-----

⑥	タイシユウ
---	-------

⑦	ブンタン
---	------

⑧	タイケイ
---	------

⑨	マぜる
---	-----

⑩	アむ
---	----

[二]

問一	1
	2
	3

問二	1
	2
	3
	4

問三	3	1
	↓	↓
	↓	↓
	↓	↓
	2	↓

[三]

問一	I
	II

問二	A
	B

問三

問四

問五

問六

問七

問八

[四]

問一	1
	2
	3

問二	I
	II

問三

問四

問五

問六

問七

問八

合計

受験番号
